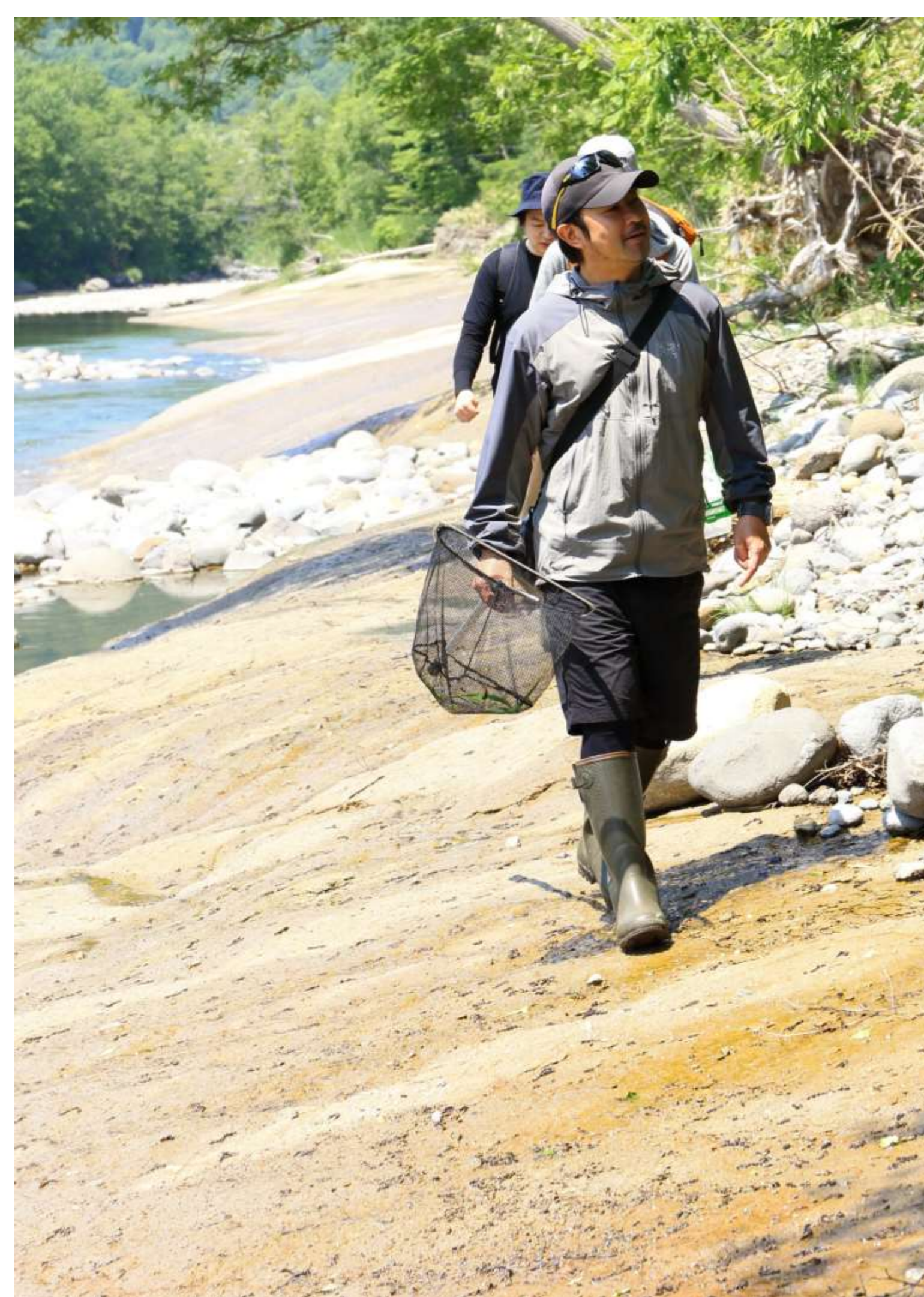




NPO法人 いきものいんく 代表 加藤 康大

札幌市出身。カナダ・アルバータ州、ヤムナスカ山岳学校の山岳ガイド養成コース終了。帰国後、大雪山にて山岳パトロール隊に所属。その後、自然保護官補佐として環境省洞爺湖自然保護官事務所にて、支笏洞爺国立公園の管理業務に携わる。外来生物の防除や希少種の保護など野生生物業務の他、山岳地域のパトロール、地域児童の環境教育に従事。環境省を退職し、2012年1月、「いきものいんく」設立。同年8月、NPO法人格取得。主に西胆振の小中学校にて環境教育を展開。



普段なかなか製品の特徴を発信することができない
第一ゴムですが、今日はフィールドブーツ #1000と今に
なっては珍しい総ゴム製の胴付長を紹介します。

とはいえ私たちも日常生活で使う頻度はあまり高くないの
で、この二つを普段の仕事で使っている
「NPO法人 いきものいんく」の加藤代表の仕事に同行し
取材したものをもとにお伝えします。

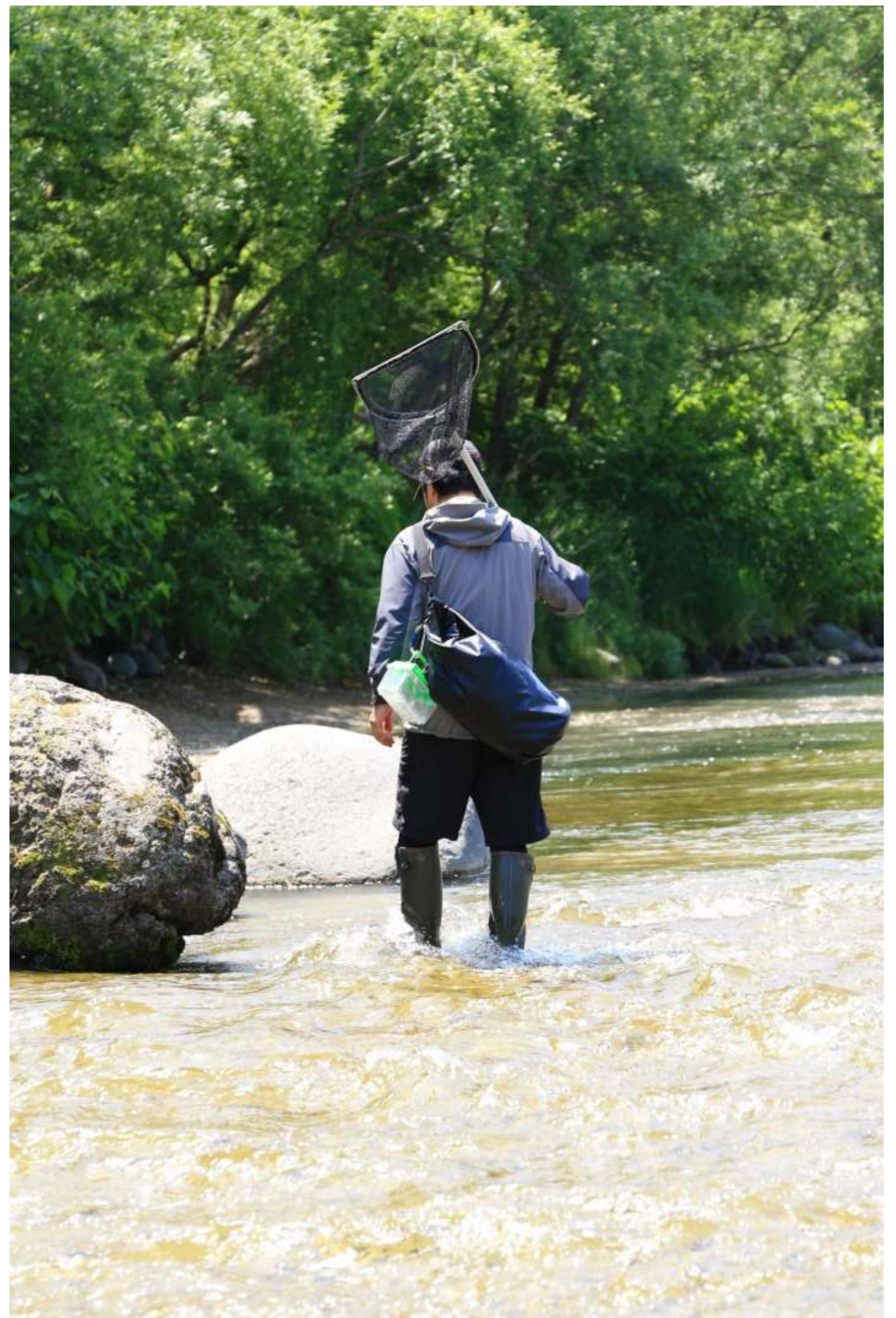
今回、ツアー前の長流川の下見に同行しました。

「川床を歩いてもとにかく滑らないし疲れない、
足元を気にせずどんどん歩けるのは心強い」
そういって加藤さんは斜面の多い川べりを
軽やかに歩いていきます。

毎日のように山・川などの自然を探検している加藤さんに
ってはフィールドブーツは相棒のような存在だ。

フィールドブーツ # 1000の靴底はビブラム社の
シャークソールのような深い切り込みが特徴。
ゴム自体にも非常に弾力がある為、ゴツゴツした
岩の上はもちろん、傾斜のある斜面でも安定感は抜群。

川の中、滝？の中にもぐんぐん進めちゃいます！
とても気持ちいいですよ。





「今履いているのは3代目。高くても数回で壊れてしまうアウトドアメーカーが多い中で3年履いても壊れないのは驚異的(笑)」

その柔らかいゴム質は屈曲にも強く、足首に適度な安定感としなやかさをあわせ持つ。

「枯れたイタドリって結構固いんですよ。弱い長靴だったらすぐに穴が開いてしまいますが、この靴は強いです。」





「胴付もゴムが柔らかく、ノーストレスで最高です。これまで膝より深い川ではドライスーツを着てたけど脱ぎ着が大変で……。これはその点非常に楽！！」

加藤さんは深い川でもあらゆる生き物を探して、子どものようにどんどん進んでいきます。

以前は昆布漁などで使われていましたが、軽い素材のものや安い輸入品が主流となってしまい、日本製の総ゴム胴付長は非常に貴重なものとなりました。

胴付長に関しては、通常の「胴付長」とゴムに布を貼り合わせた「引布胴付長」の2種類がありますが、どちらもすでに廃盤で残っているサイズは25.0、25.5、26.0cmのみのデッドストック品です。

加藤さん、お勧めのフィールドブーツと胴付長に興味をお持ちの方は第一ゴム ネットショップ「北のマルシャン」をご覧ください♪